

独・ミュンヘン発：恒例2月のインホルゲンタで日本におけるドイツ年を探す

ジュウリーの国際的なドイツの専門見本市、《インホルゲンタ・オイローパ2005：inhorgenta europe 2005》。第32回目の本展は、2月25日～28日に、ミュンヘン国際見本市会場で行われます。64,500平方メートルの広大な会場には、全国70カ国から約30,000人の来場客が見込まれています。今回の総合テーマは「Meet the market」。具体的には、同展を訪れる専門バイヤーのために、インホルゲンタを5つの小テーマに分けブースおよび商品展開をしていく、ということです。

ドイツのジュウリーは、フランスやイタリアのそれとは、同じヨーロッパながら、タイプが違うものが多く、「華やかさに欠けて」「女性にすすめにくい」などの声を多く聞きます。日本では、株柏圭が輸入総代理店となっている国際的ブランドの「ニーシング」をその代表的なジュウリーと上げる人もいます。確かに「華やかさ…」というと、頷ける部分もありますが、女性がジュウリーに求めるものは、決して華やかさだけではないのです。2005年は日本におけるドイツ年でもありますから、インホルゲンタで、ドイツの斬新なジュウリーをさがしてみてもいい。

瑞西&和蘭発：日本着のジュウリー

スイス・チューリッヒのサザンヌ・クレム：Susanne Klemmとオランダのアムステルダムのカリカ・ファン・デル・リースト：Felicie van der Leestの2氏が、東京・恵比寿のボワゾンで、それぞれに日本ではじめての個展を開きましたのでその作品の一部を紹介。サザンヌ氏は2004年10月の今展に向けて、3年の時間を費やして完成させた「シーズン」をテーマにしたジュウリーのシリーズ（写真：リング）を、11月からのカリカ氏は「アニマルパーティー」と題して、動物フィギュアとニッティングを使ったジュウリー（同）を発表しました。



1.インホルゲンタに毎回出展のドイツ人デザイナー、エリック・チママン：Erick Zimmermann氏の新作で「ボール」シリーズのペンダントとイヤリング。181.33ctsのマンゴ・カットのレモンシトリンも、彼らしくシンプルに。
2.同じく常連出品作家のギッタ・ペルケ：Gitta Pielcke氏のシルバー・リング。生き物をモチーフにするのが得意の彼女の作品は、何とも愛らしさがあります。
3.2004年のインホルゲンタに出品して好評を博した日本人デザイナーの山本明美さんのリング。世界を相手に活躍中です。

